

平成28年2月

## 吉田優 学位論文審査要旨

主査 千 酌 浩 樹  
副主査 領 家 和 男  
同 景 山 誠 二

### 主論文

Frequent isolations of influenza A viruses (H1N1)pdm09 with identical hemagglutinin sequences for more than three months in Japan

(日本国内で3ヶ月以上の間、同一のヘマグルチニン配列を有したインフルエンザA型ウイルス (H1N1) pdm09の度重なる分離)

(著者：吉田優、常城朱乃、板垣朝夫、土江秀明、岡田隆好、奈良井榮、笠木正明、田中清、井東朗子、領家和男、景山誠二)

平成27年 Yonago Acta medica 58巻 165頁～171頁

### 参考論文

1. 口唇裂・口蓋裂患者の臨床統計的検討—合併した先天異常について—

(著者：吉田優、土井理恵子、西尾幸与、Abir Majbauddin、川崎誠、小谷勇、領家和男)

平成26年 日本口蓋裂学会雑誌 39巻 28頁～33頁

2. 悪性リンパ腫の第二癌としてみられた下顎歯肉癌の2例

(著者：土井理恵子、小谷勇、木谷憲典、田村隆行、岡本秀治、岡本充浩、吉田優、奈良井節、領家和男)

平成26年 日本口腔腫瘍学会誌 26巻 113頁～121頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

インフルエンザウイルスの変異に関連して、「熱帯の生態系でのみ永続的なウイルス感染連鎖が許され多様性を獲得する。これら多様な株は、温帯地域に漏れて短期間流行し、温帯では変異せず消える。」との仮説がある。本研究では、温帯に漏れたウイルスが変異しないとする実例を得るため、鳥取県流行株のウイルス遺伝子解析を行っている。その結果、30日以上（最長で94日）の感染連鎖期間を経た後に、ヘマグルチニン遺伝子（1.7kb）に全く変異のない株が多数確認された。インフルエンザウイルスの変異には3ヶ月以上の期間を要する可能性が示された。本論文の内容は、インフルエンザ予防のためのワクチン選択をめぐる議論など、日常診療や政策決定に重要な資料を提供している。明らかに、感染症対策の分野における学術水準を高めたものと認める。